

環境デザインとその規制

Keio University



慶應義塾大学法学部
大屋雄裕

24/MAR/2021

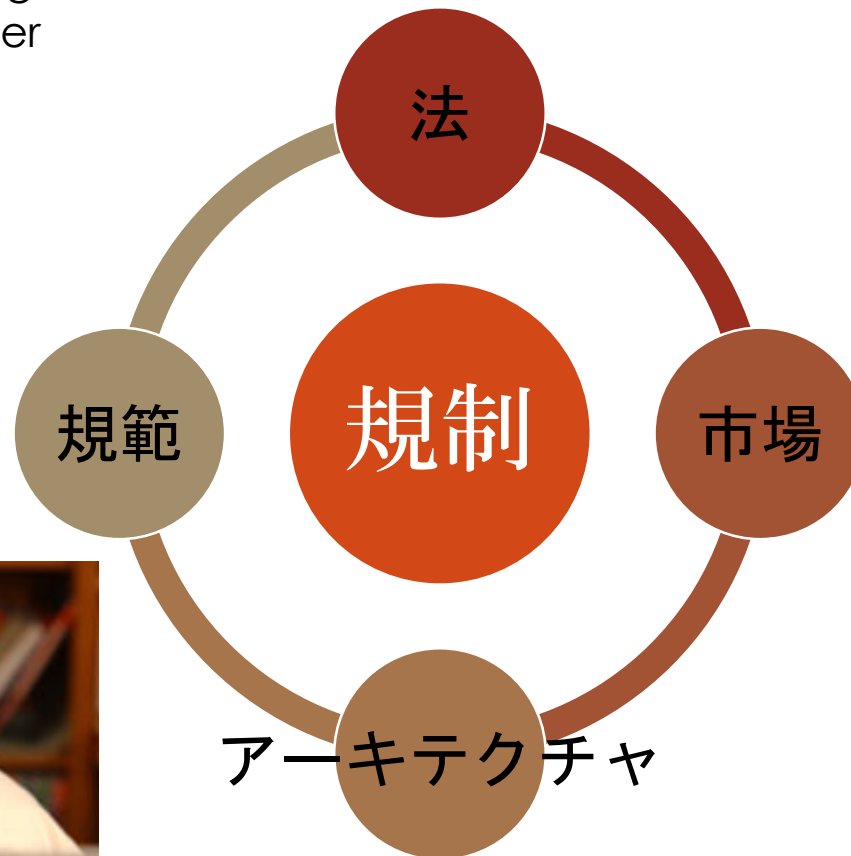
消費者裁判手続特例法等に関する検討会

規制手段のモード論

Lawrence Lessig
CODE and other
Laws of
Cyberspace
(Basic Books,
1999)

規制＝他者の行動へのコントロール
(主体は問わない)

伝統的なモード
法・規範・市場



Lawrence Lessig is thinking. from <http://cyberlaw.stanford.edu/lessig/>

アーキテクチャの権力

- 社会生活の「つくられた環境」
 - 自己決定の前提である環境自体の操作



中部国際空港

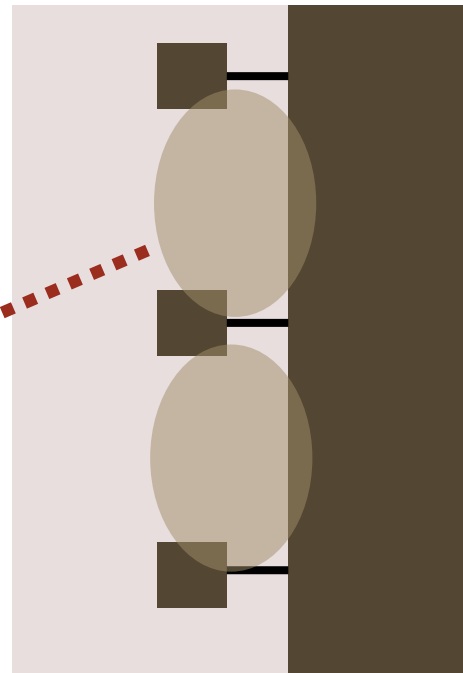
仁川国際空港



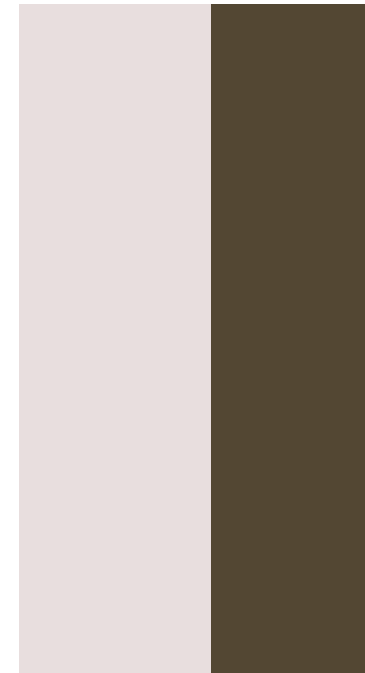
アーキテクチャによる規制



Photo: Takehiro OHYA



単純なケース



洗練されたケース

アーキテクチャの特徴

- 事前規制
 - 行為の可能性自体を消去する
 - 気付かれることなく機能し得る
- 確率性に依存、薄い前提
 - 対象の物理的・生物学的特性に依存して機能
 - 特殊な個体には通用しないかもしれない
 - 人間以外に対しても通用する



いらすとや (<https://www.irasutoya.com>)

ナッジ nudge

- 選択環境のデザイン = ヒューリスティクスの利用
 - 継続性への信頼
 - 無作為の選択の偏り
 - 選択する負担の回避
- 選択肢の維持
 - リバタリアニズム（自由至上主義）
- 本人のためになる選択への誘導
 - パターナリズム



Cass R. Sunstein (1954-)

Photo: Matthew W. Hutchins, Harvard Law Record

([https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cass_Sunstein_\(2008\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cass_Sunstein_(2008).jpg))

ナッジの実例

- eg.1 : ファーストフードのセットメニュー
 - ポテトがデフォルト（サラダに変更可能）
 - ポテト・サラダから自由を選ぶ
 - サラダがデフォルト（ポテトに変更可能）
- eg.2 : カフェテリア方式の食堂
 - 取りやすい場所・入口に近い位置に
 - サラダやフルーツを配置
 - 揚げ物やポテトチップスを配置



ナッジの発展

- より弾力的なコントロール
 - 個別化されたデフォルト
(パーソナルデータの活用)
- セレンディピティ・アーキテクチャ
 - 偶然の出会いの意図的な演出
 - 人為的なノイズの追加
- ポジティブな誘導／ネガティブな強制
 - レコメンデーション、検索エンジンの表示結果
 - 気付きにくさ.....抵抗・調整の難しさ



by design

- Privacy by Design (Ann Cavoukian)
 - プロアクティブなプライバシー対策の考慮
 - ユーザによる自覚的コントロールの失敗
- 事前・設計段階での考慮による自己決定の補完

誰がデザインするのか？



BigTech.....国際的な巨大IT企業

- 一定の信頼性
 - 顧客の満足を追求（Win-Win）
- 本当に？.....利益相反の可能性と検証可能性
 - レコメンデーション.....個人のこれまでの選好を反映
 - 在庫量と無関係であることの証明？
- 顧客満足以外のつなぎ止め策.....ロックイン
 - ウェブメール・サービスの独自機能
 - サブスクリプションモデル

国家.....独占的な公益的主体

- 民主的な正統性（democratic legitimacy）が
 - ある国ではある／ない国にはない
- 離脱不能なサービス提供者.....唯一性・特権性
 - 利便性の基礎としての身分登録 → 情報の完全な結合
 - デジタル・レーニン主義(S. Heilmann)
- コンタクト・トレーシングとExposure Notification Framework
 - プラットフォーマーからの制約？
 - 無制限な国家主権行使を警戒？

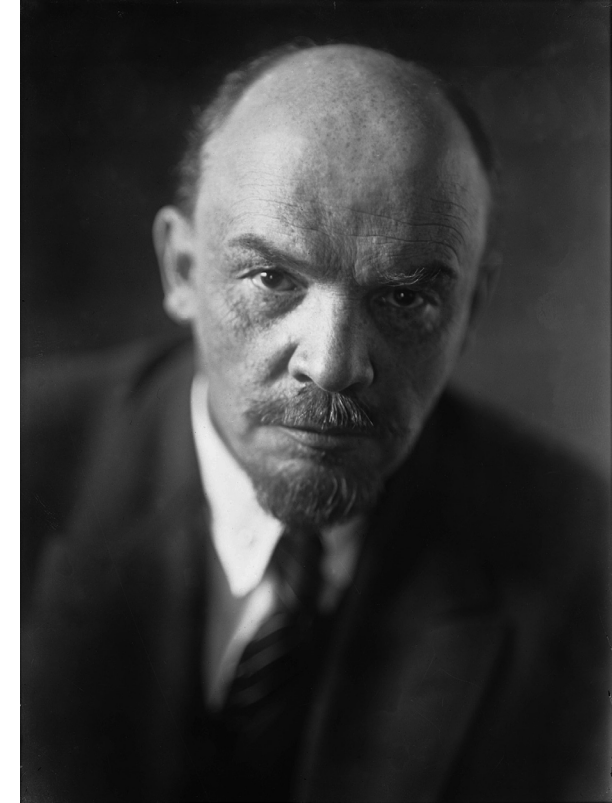


Photo: Pavel Semyonovich Zhukov (public domain)

個人.....GDPR

- EU一般データ保護規則（GDPR：2018.5.25施行）
 - 個人データに対するデータ主体の権利を確立
 - 自己コントロール＝意思に基づく自律
 - eg. データポータビリティ権（20条）
 - 個人データを管理者から受け取る／取り戻す権利
 - 他の管理者への直接移行はoptional
 - 受け入れは義務ではない

実効性？



Human-in-the-loop

- プロセスに対する人間の関与を保障
 - 完全な自動化の否定

人間は信頼できるか？

中立性・不偏性の問題

作業量や情報保護の問題



三つのモデルの共通点

- 社会・制度の複雑化・高速化、情報量の増大
 - 個人の相対的な無力化
- ↓
- 対策としての**パターンナリズム**（本人利益のための介入）
 - 企業・国家による結論への誘導（自律の忘却）
 - 自律的選択への強制（適切性の忘却）

問題：

自由と幸福の両立は本当に不可能なのか？
両立を阻害しているものは何か？

団体の再生

- 相対的に高い能力（専門性、判断能力）
- 相対的に高い資源保有状況（時間・労力）
- 裏付けるもの.....個々人の同意と協力
 - 信頼と資源提供
 - eg. 労働組合、消費者団体 etc.
- 団体は信頼に値するか？ → trustworthinessの基礎



消費者団体の社会的可能性

- 個人の判断力・注意力の外部化＝代行
 - 独立性・透明性.....信頼の源泉
 - 事例集積 → システム解析、専門家の動員
 - 法制度検討への関与
- 事業者にとっての信頼性供給
 - 外部の第三者に監視されている、という信頼性
 - 根拠のない信頼／不信からの脱却
 - esp. 透明性に限界のある場合（アルゴリズム、学習モデルetc.）

今後への課題？

- 「消費者問題」の消失？
 - 大量生産された定型的商品の取引 → 均質な条件、均質な「消費者」
 - サービスの個別化（約款法理の終焉）注目すべき「共通性」の探索
- 「消費者」の消失？
 - 二面市場とアテンション・エコノミー
 - ユーザーは第三者から財を引き出すための「商品」
 - 注目させられる個人.....損失？ 救済の論理？ 司法手続？